

アスラボさばえ 児童発達支援プログラム公表用

アスラボさばえでは、お子さまが将来、日常生活や社会生活を自立して円滑に営めるようにすることを目指し、本人支援の5領域（「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」）の視点等を踏まえ、下記の支援方針に沿ったアセスメントに基づき、5領域の視点を網羅した総合的な支援を行います。

【領域別方針】

1. 言語・コミュニケーション

- **概要:** 言語能力やコミュニケーションスキルの向上を目的とする。
話す、聞く、読む、書くといった基本的な言語活動から、非言語コミュニケーション（ジェスチャーや表情など）まで幅広く支援する。
- **具体的な支援内容:**
 - 言葉の発達を促す遊びや教材の使用
 - コミュニケーションの練習（会話の練習、物語の読み聞かせなど）

2. 人間関係・社会性

- **概要:** 他者との関わり方や社会的なスキルの向上を目指す。協調性、ルールを理解など、社会生活に必要な能力を育む。
- **具体的な支援内容:**
 - 物の貸し借りやお話を聞く時のルールの習得
 - 学校生活がスムーズにいくように基本的なルールの理解

3. 認知・行動

- **概要:** 思考力や問題解決能力、自己管理能力の向上を支援する。
- **具体的な支援内容:**
 - パズルやクイズなどを用いた思考力の強化
 - 行動計画の立て方や自己制御の方法の習得

4. 健康・生活

- **概要:** 心身の健康維持と日常生活の自立を支援する。健康管理、生活習慣の確立、基本的な生活技能の習得が整うよう支援する。
- **具体的な支援内容:**
 - 生活リズムを整えるために必要なことへの理解の促進（睡眠・食事等）
 - 日常生活に必要なスキル（身の回りの整理整頓、時間管理など）の訓練

5. 運動・感覚

- **概要:** 姿勢の保持や制作活動を通じて、身体の使い方を学ぶ。
- **具体的な支援内容:**
 - 工作等の制作活動への取り組み
 - 正しい座り方を学び姿勢の保持を意識させる訓練

【支援の具体的内容】

「数に関する支援」

主な領域【認知・行動】

- 数の三項関係（具体物と数詞と数字の関係）を理解できるような遊びや活動を行う。
 - 量や順序、分類、比較といった基礎的な認知スキルを、遊びを通して育む。
-

補助的な領域【言語・コミュニケーション】【健康・生活】

- 他者とやり取りしながら数字や計算に関する活動を通し、言語・コミュニケーションの力を高める。
- 日常生活における数字の利用（時計の読み方、買い物でのお金の計算など）を学ぶことで生活に関する領域の力を高める。

「言葉に関する支援」

主な領域【言語・コミュニケーション】【認知・行動】

- 表情絵カードを用い感情を表す言葉と自分の気持ちを一致させる活動を行う。
 - 仲間集めや反対の言葉、様子を表す言葉等を楽しみながら学ぶ活動を行う。
 - 新しい言葉を理解し、使いこなせるようになること、語彙を増やして言葉で自分の考えや感情を表現できるようになることを支援する。
 - 語彙の理解:言葉の意味を理解する。
 - 語彙の運用: その言葉を使ってコミュニケーションを取る。
 - 語彙の発達: 言葉の範囲を広げ、より複雑な表現を使えるようになる。
 - 意味を理解して文脈に応じた使い方を学ぶことで認知的なスキルを向上させる。
 - 聴覚法等に取り組むことでスラスラ読める、スラスラ書けるよう支援する。
-

補助的な領域【人間関係・社会性】

- 語彙を正しく理解し使えるようになることで人間関係や社会性を身につける。

「絵本の読み聞かせ内容を振り返る活動」

主な領域【言語・コミュニケーション】

- 内容を思い出し、登場人物の感情を理解して表現することで、言語力やコミュニケーション能力を高める。
- 絵本を通し語彙を増やす。語彙が増えることで他者に自分の考えを伝える力を育み

円滑なコミュニケーションが取れるように支援を行う。

- 「どんなことが書かれていたか思い出す」「登場人物の気持ちを想像する」「それを言葉で伝える」といった療育が、言葉を使って思考を整理し、他者とコミュニケーションを取るために必要な力を養う。

補助的な領域【認知・行動】

- 絵本の内容を思い出し、登場人物の気持ちを想像することで、認知発達を支援する。

「就学後を見据えた支援」

主な領域【健康・生活】

- 活動スケジュールをホワイトボードに貼り、活動の流れが把握できるようにする。
- 活動の始まりと終わりの時間を示し、時計を見ながら行動できるようにする。
- 学校をイメージした環境設定を行うことで就学後のギャップを軽減する。